

温泉のない温泉的空間

～別府温泉でのコミュニティを町中にも～

設計趣旨



日田林工

金 崎 ま い

別府温泉は、源泉数・湧出量ともに世界有数で、多様な泉質を楽しめる温泉地だ。さらに、大きな魅力の一つが「温泉を通じた人々の交流」。特に、地元の共同温泉（ジモ泉）では、観光客と地元住民が自然に会話を交わし、温泉地ならではのぬくもりを感じることができる。

一方で、温泉を出ると日常生活では人とのつながりが薄れてしまう現

状がある。私はこのギャップに疑問を抱き、温泉の持つ「ぬくもり」と「つながり」を日常にも広げるため、「温泉のない温泉的空間」を設計した。

この建物は、人々が自然に交流できる場をつくり、そこで生まれたつながりを町全体に広げることを目指している。訪れた人々が建物を離れたあともつながりが続き、地域がさらに活気づくことを期待している。

